

## 自ら学び、生き生きと活動する児童の育成 ～英語活動を通して～

### I 研究の内容

#### 1 研究仮説

英語活動において、子どもたちの興味・関心を生かし、英語を身近なものと感じさせるように内容や活動を工夫していけば、子どもたちは自ら学び、生き生きと活動するであろう。

#### 2 研究の具体的な内容

##### (1) 担任主導による英語活動の研究

・ALT・JTE・HRT三者の効果的な関わり方

##### (2) 本校独自の英語活動年間指導計画の作成と授業実践

・児童の願いと学年の発達段階を考慮した年間指導計画の作成

・学習会 「英語活動年間指導計画の作成に向けて」

講師：義務教育課指導主事 坂本 祐二先生

##### (3) 授業実践・・・検証授業

##### (4) 校内職員研修の実施

### II 成果と課題

#### 1 担任主導による英語活動の研究について

- ・担任が英語の授業に入る姿が、自然になってきた。最初は、英語活動に戸惑いを感じていた教師も、自分が直接授業に関わることにより英語活動の持つ楽しさを実感し、積極的に関わるようになった。
- ・子どもたちのことを普段見ている担任が英語活動に積極的に関わることで、細かなフォローができ、子どもたちの興味を広げることができた。
- ・簡単なあいさつや日常の簡単な表現を全職員で使ってみせることにより、児童にとって英語は特別なものでなくなり、より身近なものになったと思われる。
- ・英語活動の時間は英語を教えるのではなく、コミュニケーションの楽しさに気付かせ、そうした活動を多く体験させる時間と考えた。本校では、ALT・JTE・HRT三者での授業作りに取り組んできた。打ち合わせの時間ばかりでなく休み時間や放課後など時間の取れるときには気軽にALTとコミュニケーションを取るようにした。そうした中で、ALTと良い関係を作れたことが、授業に繋がったと考えられる。
- ・ALTが毎時間いるという本市の恵まれた環境を十分に生かしたいと考え、英

語活動の時間には ALT の英語の音やリズムにたくさん触れさせるようにした。実践の中から、授業中における三者の役割が明確にされてきた。

ALT：①新教材の導入，ゲームのやり方の説明，ゲームの進行，あいさつなどを通して英語の音やリズムを提供する。

②文化的なものの紹介

JTE：①デモンストレーションを行う。

②児童と一緒にゲームに参加し，活動のモデルを示す。

③ ALT と児童（担任）との英語によるコミュニケーションの手助けをする。

担任：①デモンストレーションを行う。

②必要に応じてゲームのやり方を確認したり補足説明をしたりする。

③児童と一緒にゲームに参加し，活動がスムーズに流れるように補助したり，楽しい雰囲気を作るようにする。

④困っている児童の支援

⑤児童の実際の活動の様子を見ながら，内容や流れに修正を加える。

上記のような役割が明確にされてきたことで，綿密な打ち合わせをしなくても授業を進めることができるようになった。

- ・二つの授業実践では，活動の内容を「伝えあうことを楽しむ活動」と焦点化して実践することができた。子どもたちの生き生きと活動する姿を見ることができた。英語活動において，「話して 通じる 分かる 楽しい」という場を作り出せたことは，本校ならではの良さだったと思う。伝え合うことの楽しさを確認し合うことができた。
  - ・打ち合わせの時間を確保することが難しい。学校体制の中でどのように打ち合わせ時間を確保するか工夫が必要と思われる。
- 2 英語活動年間指導計画の作成について
- ・発達段階や四季の行事等を加味した本校なりの年間指導計画を作成することができた。
  - ・作成した年間指導計画は，閉校のため次年度使われることはないが，作成時話し合われたこと，苦心したこと，作成上の視点は，今後も役立つと思われる。
  - ・内容的に多すぎる月もあった。余裕があると，子どもたちの興味・関心を生かした活動が仕組めるだろう。

### III 成果物

1 英語活動活動計画（低・中・高）

2 第3学年英語活動研究授業 「ハロウィン」ってなに？

授業者 藤原小百合 ジェイミー・ホフ 深沢ひとみ

3 第4.5学年英語活動研究授業 クリスマスを楽しもう

授業者 土橋政信 ジェイミー・ホフ 深沢ひとみ

(研究主任 近藤睦江)